

J A 下郷の自己改革の取り組み

令和元年7月時点作成

農業者の所得増大・農業生産の拡大

- ① 補助事業等も活用し農家の乳質向上・生乳生産増に取り組む
- ② 補助事業を活用した「のむヨーグルト」加工への取組

地域の活性化

- ③ 産地交流会（農業体験等）
- ④ 移住者と連携した地域の情報発信

「①補助事業等も活用し農家の乳質向上・生乳生産増に取り組む」

取組の概要

・酪農生産者への初任牛導入支援による増頭・増産

具体的な取組の内容

・酪農生産者への初任牛導入支援による増頭・増産

- ▶ 担い手の育成・支援施策の一つとして、農協と行政が連携し酪農生産者の初任牛導入を支援、乳質向上と日量500キログラムの生乳生産拡大による所得の向上を図る。

取組の成果

農協の自己改革初年度の2016年度は初任牛導入事業で乳牛7頭を新規導入、続いて2017年度・2018年度ともに各6頭を導入し、乳質向上、乳量増の取り組みを進め、生産者所得の向上につなげる。

また、牛床マット導入や飼槽改修等を進め、乳質・乳量の向上を図る。



大分市の幼稚園児に搾乳体験をさせる酪農組合員

組合員の声・期待

- ・牛の市場価格が高騰する中で、行政・農協・生産者がそれぞれ負担し合い、初任牛導入支援を受けることで、成績の良い乳牛の安定確保や乳質の向上が図られ、所得の増大に繋がられる。
- ・引き続きこれらの制度を維持・発展してもらいたい様、生産者と農協が連携して行政へ要請してもらいたい。

「②補助事業を活用した「のむヨーグルト」加工への取組」

取組の概要

- ・生乳増産に基づく補助事業を活用した「のむヨーグルト」加工への取組

具体的な取組の内容

- ・補助事業を活用した「のむヨーグルト」加工への取組
 - ▶ 酪農家の乳質向上・生乳生産増に取り組む中で、増えた乳量の有効活用として国の補助事業を活用したヨーグルト製造施設を整備、「下郷農協の飲むヨーグルトS-1」を開発し2018年3月より販売開始。更なる生産者の所得の向上と生産拡大をめざす。
 - ▶ 2019年3月までに当初計画の販売実績見通しを達成、2019年度より生乳受入単価を5円アップする。（基本乳価アップ+条件加算による。）

取組の成果

- ・生乳100%、上品な甘味を出すため香川県「和三盆」を使った、こだわりの「飲むヨーグルトS-1」を開発



- ・「耶馬溪牛乳」に続く主力商品として生産・販売をスタート



- ・2018年9月、なかつ6次産業推奨品の認証を受け、行政との連携による販売が本格化



組合員の声・期待

- ・2019年3月に当初計画の販売見通しが立ったことで、生乳の農協買入価格が一定額上がったことは、農家所得の向上はもちろんの事、今後の生産意欲の向上にも繋がる。
- ・農協主力の牛乳工場が実績で伸びていき、農協全体も相乗効果で業績が引っ張られることを期待する。

「③産地交流会（農業体験等）」

取組の概要

- ・産地交流会（農業体験等）

具体的な取組の内容

- ・産地交流会（農業体験等）
 - ▶ 都市消費者やその家族ら年間約300人を産地へ招き、農作業体験を通じて有機農業への理解醸成や生産者との親睦交流を図る。

取組の成果

- ・各消費者団体等を様々な形で受入、年10回延べ392名の消費者やその家族に無農薬稲作・有機野菜作りや搾乳体験などで産地交流を行う。



100人を超える消費者が生産者と田植えで交流

組合員の声・期待

- ・消費者を受け入れることは、事前の準備などで生産者の負担も大きいですが、「顔の見える産直」を進めるために重要な取り組みの一つでもあるので、これからも色々な形で産地交流を発展させてほしい。消費者皆さんの「安心・安全で美味しい」の声を励みに、今後も生産を頑張りたい。

「④移住者と連携した地域の情報発信」

取組の概要

- ・移住者と連携した地域の情報発信

具体的な取組の内容

- ・移住者と連携した地域の情報発信
 - ▶東日本大震災による原発事故以降、13家族40人を超える移住者が農業などに携わりながらこの地域で生活、このネットワークを生かした地域や農協の取り組みを情報発信し、地域コミュニティの活性化をめざす。

取組の成果

- ・下郷地域の魅力や下郷農協の商品を紹介する、移住者らが中心になって編集・発行を続けるフリーペーパーの「雲与橋」(写真左)
 - ※表題の「雲与橋」は下郷地区中心部の山国川に架かる橋の名前。
- ・移住者の人たちと地域住民が一緒になって開催する「第5回下郷映画祭 & オーガニックフェスタ」の会場前で賑わうフードコーナー（写真右）



組合員の声・期待

- ・有機農業に取り組む農協や地域があるとして、移住先に下郷地域を決めた人たちが多く、多様な価値観の人々を受け入れることで、地域文化の再発見や地域農業・地域振興に繋がることを期待する。そのための架け橋として、下郷農協の存在意義は非常に大きいと思う。